

赤水図を教材とする新しい 地図教育の全国モデルをめざして

拝啓、このたび日本大学経済学部(地理学・地理教育研究)の教授で、文部省と文科省合わせて初等中等教育局教科書調査官(地理)を13年間務め、現在、日本地図学会 常任委員長のト部勝彦教授が、高萩市の3つの中学校において長久保赤水顕彰会が用意する『5倍の大型床敷赤水図、4.23m×6.44m』を活用し、生徒達の眼下にある大きくて正確な『赤水図』上を、実際に移動して地図を読み取るという新しい授業を、早ければ9月にそれぞれの中学校で実施する予定です。今までの小さな地図を用いる授業と違って、地図を読み取りやすくする「5倍拡大地図上を移動し臨場感のある授業」と、中学生自身が扱うタブレットで「赤水図と現代の日本地図との比較」など電子データを見ながら、「生徒の協働作業で考え他人の意見に触れて理解を助ける授業」により、これまでにない新しい地図教育をめざしたいと考えています。

この新しい授業形態を維持発展させるためには、ト部勝彦教授による今回の授業の意義を講演する場を設け、更にその授業風景(授業風景ビデオ)を生徒の保護者などにご覧いただいた上で、その良さをご理解いただき、同時にご意見をいただく考えです。更に『長久保赤水』を知っていただくために、高萩市製作で和泉元彌氏が主演した『その先を往け! 日本地図の先駆者 長久保赤水』の映像(約50分)を借用し、高萩市文化会館ホールで上映し(コロナ感染予防目的で収容人数600人に対し制限をする場合あり)、出来れば上演前に和泉元彌氏に演じた体験からの『赤水の魅力』をご講話いただく事により(ビデオレターの場合あり)、「長久保赤水」の功績と人となりをお伝えし、更にそれらの様子を全国配信して、高萩市を新しい地図教育の全国モデルケースの発祥地にしたいと考えています。

この計画を実現するため、皆様からのご支援を賜れたなら幸いです。

敬 具

以下に、拡大床敷赤水図の上でト部教授が講義するイメージを示しますので、教科書上で行う授業との違いをご覧ください。



3倍床敷赤水図上で講義の見本案を示すト部教授
(高萩市歴史民俗資料館にて)



5倍床敷赤水図上で解説するト部教授
(2019年日本地図学会松山大会にて)